

事故調査：目的は犯人探しではなく、原因の究明です

こちらは、英文記事「[Incident investigation: search for the cause, not the villain](#)」（2020年4月14日付）の和訳です。



事故を調査する場合は、事故に関係した個人だけでなく、事故を取り巻く状況を形成する複合的な原因を調査するようにします。

事故調査では、事故の原因を乗組員のせいにして片付けてしまうことが多々あります。事故原因としてよく挙がるのは、手続き違反、能力不足、状況認識力の欠如、ヒューマンエラーなどです。例えば、当直のオフィサーが居眠りをしていたために座礁事故が発生したとします。対象を個人に限定する調査では、こうした事故の場合は大抵、居眠りをしたオフィサーか船長の責任にされます。しかし、調査では、「なぜオフィサーが居眠りをしてしまったのか」「オフィサーの直近の港湾業務は激務ではなかったか」「適切な人員配置が行われていたか」「取引関係から来るプレッシャーはなかったか」「疲労を理由に船長が出発を遅らせるよう求めたとしたら、会社はどのような反応を示したと考えられるか」「会社のカルチャーはどのようなものか」などの質問をすべきです。こうした質問は、事故の原因となった状況を大まかに把握し、根本的な問題を理解するのに役立ちます。

調査員は、犯人探しに重点を置くあまり、事実に基づいた調査を実施し、事故が起きた際の状況を理解することを疎かにしてしまうことがあります。これは「指弾本能」として知られていますが、根本原因を究明して将来同様の事故が発生するのを防ぐという事故調査の最終目的を大きく損ねることになります。一般的にこうした行為の背景には、後難を恐れ、失敗を率直に正直に報告することができない組織文化が存在しています。事故調査のあり方を変えるには、事故が単に個人やグループのせいなのではなく、事故を取り巻く状況を形成する複合的な要因も関係することを念頭に置くべきです。

今後事故が発生した場合には、それがささいな事故であっても、改善を必要とする何かがあることを示すサインであると捉えるようにしてください。調査の目的は原因を知ることであり、個人を非難することではありません。

更なる情報

損失防止ポスター：[Stop the blame game（責任の押し付け合いはやめましょう）](#)

Gard Alert: [優れたセーフティ・カルチャーの重要性](#)

本情報は一般的な情報提供のみを目的としています。発行時において提供する情報の正確性および品質の保証には細心の注意を払っていますが、Gard は本情報に依拠することによって生じるいかなる種類の損失または損害に対して一切の責任を負いません。

本情報は日本のメンバー、クライアントおよびその他の利害関係者に対するサービスの一環として、ガードジャパン株式会社により英文から和文に翻訳されております。翻訳の正確性については十分な注意をしておりますが、翻訳された和文は参考上のものであり、すべての点において原文である英文の完全な翻訳であることを証するものではありません。したがって、ガードジャパン株式会社は、原文と内容の不一致については、一切責任を負いません。翻訳文についてご不明な点などありましたらガードジャパン株式会社までご連絡ください。